

平成31年度 東京都立国分寺高等学校 学校経営報告

令和2年3月31日  
校長 糸井 一郎

評価A：90%以上の達成度 評価B：70%以上 評価C：70%未満

	主な取組	評価	取り組み状況と数値結果
学習指導	<p>①現役で難関国立大学等を含めた国公立大学や難関私立大学等の進学実現に必要とされる学習の質と量を確保する。</p> <p>②本校の将来像も含め、適正な教育課程の検討を実施する。</p> <p>③高い水準の授業実施・確保のため、学力スタンダードの活用等、学校として組織的に授業力・指導力向上、学力向上に取り組む。</p> <p>④毎時間、質・密度の高い計画された授業を全員が実施する。</p> <p>⑤データ等を活用し、必要な指導を確実に実施しながら、入学時の学力の維持・向上を基本目標に全教職員がひとつのチームとして取り組む。</p>	A	<p>①長期休業中の講習は、122講座で若干減少した。学校閉庁日の設置により、特に冬期休業の日数が著しく減少し、休業中に講座を開講できる日数自体の減少が課題である。 教務部を中心に、年間授業時数のバランスを調整し、必要な授業数の確保に努めた。今年度は年度当初の大型連休と年度末の自宅学習の措置により、例年より授業日数は20日少なくなった。</p> <p>②本校生徒に求める学力と学習実態とを考慮し、情報の授業を1学年で履修させる等の変更を行い、生徒の進路希望実現と探求型の活動が両立できるように教育課程を整備した。また、新学習指導要領実施に向けて、文理分けをしない教育課程編成に向けた枠組み作りに着手した。</p> <p>③学力スタンダード、年間指導計画（シラバス）、週ごとの授業計画等に基づき、高い学力を身に付けさせる指導が行われた。</p> <p>④いずれの授業においても50分の授業時間をフルに活用し、生徒の興味関心を高め、また学力を身に付けさせるよう小テスト等も効果的に導入することで、質の高い授業実践が行われた。</p> <p>⑤49期生の1年次最初と3年次最後の模試結果によると、各教科の平均偏差値が国語では約1.5、数学で3.4、英語で3.7下がっている。低下は見られるが、大きな学力の低下とはいえない。49期生のセンター試験結果では、フルサイズ受験が文系48名、理系112名で昨年度より増え、平均点は文系が670.4点理系が611.0点、800点以上が文理それぞれ1名ずつ計2名だった。実力テストの分析をデータを活用しながら実施し、生徒の学力の維持向上に努めてきた。</p>

	主な取組	評価	取り組み状況と数値結果
学習指導	<p>⑥理数リーディング校として、数学と理科の知識や技能を総合的に活用した探究活動について研究開発を行い、教科・科目の枠にとらわれない多角的・複合的な視点で事象を捉え、豊かな発想で探究的な学習を行う。</p> <p>⑦英語教育推進校として、生徒の使える英語力の向上を図るため、特に「聞く」、「話すに」重点を置きながら英語の4技能をバランスよく育成するため、きめ細かい指導を行う。</p> <p>⑧各教科の授業だけでなく、部活動及び行事等の教育活動全般を通して、オリンピック・パラリンピック教育を適切に実施する。</p>		<p>⑥新科目「理科課題研究」を設定し、85名が受講し、43の課題に挑戦した。いくつかの各種学会や高文連東京大会、科学の祭典などで発表を行った。自主的に決めたテーマに関しては積極的に学ぶ姿勢がみられ、新しい学力観に基づく能力の育成に有効な手段であることが実感された。JAXAや高エネルギー研究所の見学や伊豆方面の巡検、隔週講演会なども実施した。</p> <p>⑦英語表現におけるスモールトークの導入、ブレーン・ストーミングを意見表明のライティングに接続する試み、C英Iのトピックに対するエッセイ・ライティングなどを積極的に展開することで、生徒の英語発信力の向上がみられた。その結果2年GTECの得点率は、昨年比で65%から69%へと上昇した。</p> <p>⑧体育科を中心として、各教科が様々な視点から指導に当たり、国際理解、ボランティアマインドの深化につなげた。国際理解においては東京外国語大学合格者13名にもその効果は現れ、ボランティアチームの活発な活動も成果と言える。</p>
進路指導	<p>①難関国立大学等を含めた国公立大学や難関私立大学等をはじめ、進学希望大学への現役合格を目指す</p> <p>②統一のとれた組織的な進路指導を実施する。</p> <p>③生徒の可能性を最大限生かす指導を全員で継続的に行う。</p>	A	<p>①難関国公立大学（重点校指定第1グループ）現役合格者は5名で昨年度より1名増えた。旧帝国大学5名、その他、国公立大学の合格者の総数は108名で過去最高の実績をあげた。難関私大への合格者数は昨年度よりやや減少している。</p> <p>②学年主催で実施していた実力テストの計画・実施をすべて進路指導部で行うことにした。年度による実施のばらつきが一切ないようにし、データ分析や比較が可能なように改めた。探究活動や進路行事も進路指導部が主催して行った。</p> <p>③今年度より1学年・2学年で本格的に探究活動を開始した。1学年では「総合的な探究の時間」の中で「論理コミュニケーション公式シラバス」を採用して思考力や表現力の育成に努め、2学年では「問をたてる」活動から前半はグループ探究を進め、後半は個人探究を実施している。生徒個人の「問い」を主体的な活動につなげ、特に2学年では全員の教員が関わる活動につなげている。</p>

	主な取組	評価	取り組み状況と数値結果
進路指導	<p>④進路実現に必要な自律的に学ぶ力の育成・向上、学習習慣確立等のため、適切な課題の継続的な学習や自分に必要な学習を自ら行うことができる力の向上等に必要な指導を具体的に実施する。</p> <p>定期的に調査等を実施し、面談等で繰り返し指導する。また、部活動顧問等からも指導する。</p>		<p>④各学年等の取組</p> <p>(1学年)</p> <p>総合的な探求の時間・進路遠足・外部人材を活用した講演会やワークショップを実施し進路に関する意識の向上に努めた。朝読書の指導を年間を通して行い、学習に対する意欲・能力向上を図った。</p> <p>(2学年)</p> <p>総合的な学習の時間を活用し、自ら課題を見つけ、それについて深く学習するその基礎土台について学び、個人探求テーマについて考えた。進路実現に向けての3年次教科選択について、各担任で生徒面談を行い、生徒と教員との共通理解を深め、一人一人に応じた指導を行った。日々の授業を大切にしよう指導し、実力の養成を図ることができた。</p> <p>(3学年)</p> <p>4月から木もれ陽までの間にできる限り集中して頑張り、木もれ陽以降に追い込みが翔られるよう指導した。月に1回ペースで模試を実施し、担任との面談を通して出願校を決定した。9月までの準備が遅れた生徒もかなりいたが、最後まで諦めずに頑張りきることで、「国公立100名」を突破することができた。</p> <p>(部活動)</p> <p>部同連では、部活動を通しての課題解決能力向上を求め、また真の文武両道を訴えてきた。今年度の難関大学合格者はいずれも部活動にも力を注ぎ、しかも学習を怠らなかつた生徒であり、行事、部活動といった特別活動と、進路への活動が良い連携を見せている。</p>
生活指導	<p>①あらゆる教育活動を通じて、全ての教員がぶれることなく、「当たり前にするべきこと」を「当たり前のこと」として徹底して指導し、基本的な生活習慣を確立させる。</p> <p>②高い社会規範意識の涵養を図り、自他を認め、互いに尊重する人間尊重の精神と規範意識を育む。</p>	A	<p>①教職員が共通理解をもって指導に当たり、生徒が自らを律して規律ある学校生活を確立し、社会で通用する素養としての基本的な生活習慣や身だしなみを整え、国分寺生としての誇りや自負心を醸成し、学校生活への満足度を高めることができた。</p> <p>②生活委員会や部同連により、自転車の安全運転、運転マナーについての意識啓発、指導を行い、ボランティアチーム、部活動を中心として地域との交流を図り、地域あつての学校という意識向上を目指したが、一部でまだ社会性に乏しい行動が見られる。</p>

	主な取組	評価	取り組み状況と数値結果
特別活動・部活動	<p>①すべての土台となる健全な主体性と自律的生活管理能力の育成、学校のルールに基づいた特別活動、部活動の推進・充実を図る。</p> <p>②部活動保護者会を適宜実施し、保護者と顧問の連携を深め、生徒の主体的活動を支援する。</p> <p>③経営企画室との連携のもと、部費を適正に執行・管理する。</p>	A	<p>①生徒が主体性をもち、計画的、また効率的に活動することにより、木もれ陽祭は、天候のアクシデントにたたられながらも活況を呈し、部活動も活動時間、下校時間を厳守しながら学習との両立を成し遂げた。</p> <p>②各部が活動の実情に応じた保護者会を適宜開催し、保護者と顧問の連携を深め、合宿、公式戦、発表イベントでは、生徒の活動をよく支援してくれた。</p> <p>③学期末に1回、現金出納簿を確認し、通帳との照合を行った。また、部費を徴収している団体については、保護者への文書配布、説明等を徹底し、適切な会計処理が行われるようにした。</p>
健康づくり	<p>①全教職員により、日常のあらゆる教育活動において生徒の様子を観察し、情報の共有と迅速な対応を行うことで、いじめの早期発見や自殺予防に全力で取り組む。</p> <p>②スクールカウンセラーと連携し、教育相談委員会を定例開催するとともに、個別に支援が必要な生徒については、全教員で情報を共有し、きめ細かい指導を実施する。</p> <p>③基本的な生活習慣の定着と授業、部活動、行事等で体力向上に向けた取組を充実させ、体力テストで全国平均値以上を達成する。</p>	A	<p>①毎朝の職員朝礼や企画調整会議、職員会議などを通して、生徒の情報の共有を行うことができ、いじめの防止や自殺予防に取り組むことができた。</p> <p>②スクールカウンセラー（SC）と連携し、教育相談委員会を5回開催し、個別指導を進めた。今年度から、職員会議等でSCに直接報告してもらい、研修及び情報共有を徹底した。今後も様々な事情で欠席が増えている生徒へのケアを家庭と連携しながら継続していくことが求められる。</p> <p>③授業の始めに行う、補強運動を改善し、継続的に体力強化を行うことができた。結果的に、体力テストにおいて、全国平均値を上回ることができた。</p>
募集・広報活動	<p>①ホームページを毎週1回以上更新し、本校のあらゆる教育活動を発信する。</p> <p>②学校説明会・学校見学会、塾対象説明会、入学相談会等の内容を工夫するとともに、募集・広報活動を積極的に実施する。</p>	A	<p>①ほぼ毎週ウェブサイトを更新し、本校の生徒たちの活動をひろく中学生や本校の保護者に広報することができた。デジタルネイティブである中学生にとっては、高校生活の魅力については受検雑誌よりもウェブサイトの情報を重視していることがうかがえるため、この戦略は効果的であった。</p> <p>②教員が主体に説明を行ったものの、中学生がもっとも知りたい本校の学校生活については、可能な限り在校生に話をさせることで、本校の学校生活をより具体的にイメージさせることができた。学力に基づく選抜における倍率は1.61倍で、過去5年間の平均より若干低下した。</p>

	主な取組	評価	取り組み状況と数値結果
学校経営・組織体制	<p>①教科会を年10回以上実施し、教科ごとに設定した目標値を指標とした定点観測等を行い、教科として組織的、計画的に授業及び学習指導等の改善を実施しながら、生徒の学力向上に自律的、戦略的に取り組む。</p> <p>②考查問題のラベリング化、CAN-DO リストの活用等を実践し、継続的に生徒の学力達成度を確実に把握し、各生徒の学力状況に応じた指導を的確に行う等、教科として組織的、計画的に学力向上に向けて取り組む。</p> <p>③教科会、学年等で検討する課題や資料等の作成・提供、教科単位の学力分析会や研修会の実施等の進行管理等は、学力向上委員会が行い、生徒の学力向上及び授業力向上に向けて組織的に取り組む。</p>	B	<p>(国語科)</p> <p>①教科会を年10回以上実施し、計画的に授業及び学習指導等の改善を実施しながら、生徒の学力向上に自律的、戦略的に取り組んだ。</p> <p>②定期考查ごとに科目ごとの状況分析を行い、目標にあった定期考查問題の作成を行った。</p> <p>③各種教科指導力向上研修の内容を教科で共有し、生徒の学力向上及び、授業力向上に向けて取り組んだ。</p> <p>(地歴公民科)</p> <p>①教科会を年10回実施し、相互に授業改善等の意見交換や、修学旅行の行き先の沖縄をコアとしたカリキュラム開発等を実践した。</p> <p>②学力向上のため、他校の優れた実践事例を教科会で報告し、各教員が個人目標としてその達成を目指し努力した。</p> <p>③教科会では毎回模試分析等の結果を共有し、各自の課題を洗い出し、次回の教科会までに改善するようにした。</p> <p>(数学科)</p> <p>①教科会を10回実施し、定期考查ごとに科目ごとの状況分析を行い、目標にあった定期考查問題の作成を行った。</p> <p>②定期考查結果を分析し、今後の授業計画を点検し、必要に応じて指導計画を修正した。</p> <p>③模試ごとに、正解率の低い問題をあげて対策を練った。それをもとに、授業で共通に扱う課題プリントを作成し実施した。</p> <p>(理科)</p> <p>①教科会は全体のは本年度6回であったが、物理、化学、生物の教科の中での打ち合わせは頻繁に行ったのでトータルは10回以上行った。</p> <p>②③実力試験の分析などを踏まえて日常の授業の在り方を教科ごとに検討し、実践した。</p> <p>(保健体育科)</p> <p>①教科会を年10回実施し、「体育」「保健」それぞれの進行状況を確認した。</p> <p>②学習状況を踏まえた定期考查を作成・実施しその結果を踏まえ、学習内容の再編成を行った。</p> <p>③教科会で各授業の取り組み状況を報告し、相互研修の場をもった。</p> <p>学習内容の再編成や、相互の授業力向上に役立っている。</p>

	主な取組	評価	取り組み状況と数値結果
学校経営・組織体制	<p>④教員の相互授業参観【年3回以上】等、OJTを推進。誰でもいつでも授業研究等ができる環境を整備する。</p> <p>⑤ライフ・ワーク・バランスを効果的に推進する。</p>		<p>(芸術科)</p> <p>①教科会を年5回実施し、「音楽」「美術」「書道」で科目ごとの進行状況分析を行った。</p> <p>②芸術では定期考査を実施していないが、授業の中にテストや発表を実施した内容から、芸術の学力向上に向けて分析を行った。</p> <p>③生徒の学力向上においては、実技科目であるため、個別に生徒対応し指導者の助言により個の課題を与えることで、実現させた。</p> <p>(英語科)</p> <p>①教科会を年10回実施し、定期考査の状況分析、GTECの分析や今後の利用形態について検討し、新傾向の大学入試への対応をおこなった。</p> <p>②CAN-DOリストを1学年に配布し、学習の振り返りに役立てた。</p> <p>③英語教育推進校として慶応大学名誉教授の霜崎実氏を講師に招きアクティブラーニングの授業展開について研修をおこなった。</p> <p>(情報科)</p> <p>①教科会は不定期に10回以上実施した。定期考査を事前に確認し計画的に授業を行った。</p> <p>②考査問題と授業進度を確認しながら学力向上を図った。</p> <p>(家庭科)</p> <p>①知識だけの習得にならないようにできるだけ実習を取り入れて計画し授業を進めた。学年掲示板を使って優秀者展示をし、モチベーションの向上に努めた。</p> <p>②夏休みの課題はコンクール参加と家族のための料理作りにした。(料理コンクールは学校賞)課題も含めて授業はできるだけ学校での学びを家庭生活に結びつけ、自立した社会人となる力を付けられる内容にした。</p> <p>④相互授業参観を年間で3回設置しているが、自身の授業準備、採点等日々の業務が多忙なため、授業時間内に他の授業を見学する余裕がなかった。授業参観の状況は昨年度と変わらず一部にとどまっておき、実施形態も含め課題である。</p> <p>⑤定時外の在校時間は一人平均で月に36時間から33時間に短縮した。しかし、現在でも80時間を超える職員が2名から3名いる実態もあり、ライフ・ワーク・バランスの実現には個人差が見られた。週休日の部活動、平日の授業準備、分掌業務など、業務全般に渡ってスリム化を目指す必要がある。</p>

	主な取組	評価	取り組み状況と数値結果
	<p>⑥経営企画室の主体的な経営参画と全教職員の共通理解による事務処理の効率化を図る。</p> <p>⑦個人情報の適正な管理をはじめ、サービス事故の防止に努める。</p> <p>⑧日常の授業での利用及び進路指導部と連携した進路指導での利用を促進し、図書館の利用率の向上に取り組む。</p>		<p>⑥ヒアリングを基にした適切な自律経営推進予算の執行を行った。また、企画調整会議等で懸案となった事項については個々に内容を確認し柔軟な予算措置を行った。</p> <p>⑦年2回の校内研修、e-learningを通じて、サービス事故の未然防止に取り組んだ。教職員の意識も高かったため、今年度本校ではサービス事故はなかった。</p> <p>⑧授業や学習に活用できる資料を積極的な購入・提供を行い、保健体育科・理科課題研究・2年総合など、探究的な学びでのガイダンスや資料相談などの授業支援を行った。また、進路に関する情報提供、新聞記事切り抜きによる時事情報の提供、小論文・面接等の専門分野の資料の紹介等で、進路指導部と連携し生徒の進路実現の支援に努めた。授業支援や進路部との連携により、生徒に図書館に足を運んでもらい利用率の向上に取り組んだ。</p>